

みんなの広場



▲礼儀正しく、真剣に。白熱する試合展開のなか、中学生たちの元気のいい掛け声が響いた「市内中学校柔道大会」6月23日(土) / 所沢市民武道館 (撮影 / 市民カメラマン・西山元博)



▲おなじみのハワイアンメロディーと、優しく穏やかなフラダンスでゆったりとした優雅な時を過ごした「第16回ハワイアンフェスティバル」7月1日(日) / 吾妻公民館 (撮影 / 市民カメラマン・松崎 満)

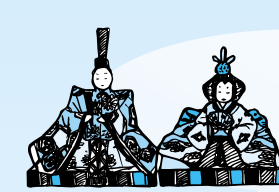


▲大人のチームも小学生のチームに負けじと、大ハッスル！みんなの掛け声が体育館に響きました。山口公民館・つばき児童館合同「綱引き大会」6月30日(土) / 山口小学校体育館 (撮影 / 市民カメラマン・津田資雄)



▲ドイツでの海外演奏を8月に控え、ますます気合いが入る男性合唱団「所沢メンネルコール」第21回定期演奏会6月17日(日) / 市民文化センター・ミュージズ (撮影 / 市民カメラマン・谷 亮)

みんなのギャラリー



歴史再発見 ところざわの文化財



弘法大師にまつわる伝説 ～弘法の三ツ井戸～

武蔵野台地の中央部に位置する所沢は、地下水位が低い。昭和12年に上水道が敷かれるまでは、水の便がたいへん悪いところでした。近隣の村では「所沢の火事は土(どろ)で消す」とか「かわいい娘は所沢に嫁にやるな」といわれることもあったそうです。そんな、水に苦労した所沢にあって、次のような伝説が残されています。



夏のある日、一人の僧が民家に立ち寄り一杯の水を所望しました。そこで機を織っていた娘は、水を汲みに行きましたが、なかなか戻ってきません。不思議に思った僧は、帰ってきた娘にその訳を尋ねました。すると娘は、このあたりは昔から水に不便なこと、井戸まで遠くて苦労していることを語りました。それを聞いた僧は、立ち去る前に娘に三つの場所を杖で指し示し、そこに井戸を掘るようにと言いついていきました。半信半疑ながらも村人たちがその三つの場所を掘ると、深く掘ることもなく清らかな水がこんこんと湧き出しました。夏でも潤れることのないその井戸を、村人たちは「三ツ井戸」と呼び、誰が言うともなくあの僧は弘法大師だという話が広まりました。

現在、この三ツ井戸のうちの二つは既に埋められて現存していませんが、残りの一つが西所沢一丁目の国道463号線と東川が交差する弘法橋のたもとにあり、市の指定文化財(史跡)となっています。また、井戸の西方には御堂があり、弘法大師が祭られています。毎年8月20日・21日には、西所沢町内会による弘法大師の祭りが行われ、井戸の周辺は大いににぎわいます。水の大切さは、昔も今も変わらないということを、この井戸は教えてくれているようです。



『心に伝わる演奏』をモットーに

加藤 みゆきさん (北所沢町)

衆大学に入学を果たします。また、心から信頼できる師との出会いを得て、イタリアでの国際ピアノ演奏コンクールで4位に入賞するなど、数々の優秀な成績を収めるまでに成長しました。

いわば出遅れてピアノの世界に入った加藤さんは、周りから「大学に住んでいるの?」と聞かれるほど朝から夜遅くまで練習の虫になったといいます。「小学生のころ、クラスで自分だけ鉄棒の逆上がりができなかったときも、たくさん練習しました。ピアノも同じです」と熱く語る加藤さんの負けん気が伝わってきます。

心に伝わる演奏を心がける加藤さんは、英国の教会や老人ホームでピアノを弾いています。国内でもリサイタルを行い、先月はふるさと所沢でクラシックの魅力を多くの皆さんに伝えたいと、市民文化センター・ミュージズですてきなピアノ演奏を無料で披露してくれました。

「世界の名だたるホールで演奏してみたい」と夢を語る加藤さんが、所沢から世界に羽ばたく日が楽しみです。

はつらつ野老っ子



皆さん「ピアノが弾けたらいいなあ」と思ったことはありませんか?今回は英国ロンドンの王立音楽大学大学院でピアノの勉強をしている加藤みゆきさんをご紹介します。加藤さんは所沢市で生まれ美原小学校を卒業しました。小学生のころからバレエを習い、将来はバレエ衣装デザイナーになろうと考えていたとき、英国のロイヤルバレエ団の「眠れる森の美女」をテレビで観て「英国で勉強したい」と思いました。ところが高校3年生の秋、交換留学生として英国に行ったときのホームステイ先が音楽一家で、ピアノや音楽に囲まれた生活を体験するうちに、自分の進むべき道はピアノだと確信したといいます。英国でピアノを学ぶことを決心した加藤さんでしたが、本格的にピアノを始めるには19歳という年齢は遅すぎました。英国の音楽大学は、当時の彼女の力量では入学を許可しませんでした。「絶望!自分なりに精一杯やってきたのに...でも、ピアノをあきらめられなかった」と当時の心境を振り返ります。自らの性格を「負けず嫌いで頑固」と評する加藤さん。その後も猛練習を続け、英国王立の音

旅先での盆踊り

北野・池田 明良

もう30年近く前のことなる。当時大学生だった私は、友人たちと夏休みに2週間の北海道旅行をした。キャンプをしたコースホテルに宿泊したりと、お金はないけれど時間はたっぷりある学生の貧乏旅行である。時節柄、盆踊りの真っ最中であった。ある会場に立ち寄ると地元の人たちは快く私たちを踊りの輪に迎え入れてくれた。にぎやかな北海道に合わせた軽快な踊りの方々、私たちも見よう見まねで踊った。とても楽しい休憩時間になりアナウンスが入った。飛び入りで東京から来た大学生に東京音頭を踊っていただきます。と...もうビックリ!東京音頭なままだと知らない。しかし、お世話になったままで帰るわけにもいかず、東京音頭が流れるなか「ヒゲダンス」を踊った。すると子どもたちが集まって来て、大いに盛り上がった。再び当地を訪れることがあれば、ぜひ「東京音頭」と「所沢市民音頭」を披露したい。

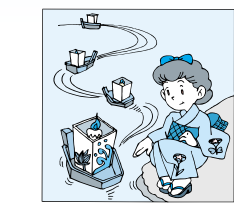
迎え火・送り火

和ヶ原・山ノ井 義治

盂蘭盆の初日には、遠方の家族もみな集い祖先の精霊を迎えるために、夕方門前で麻幹を焚く。見上げる夕陽の雲海の後方から早く帰ってくるように、と馬の鬣形もいっしょに焚く。その後、仏壇にて「何もお構いできませんが、どうかゆつくりしていいですか」と祈る。お盆の間は、すべからず祖先に見守られているように祈る。お盆の最終日には送り火を焚く。満天の星をいまだく果てしない夜空へゆつくり旅立つようにと、牛の鬣形も焚く。高く立ち上がる煙の中に父母や姉たちの面影がよぎる。祖先とのよすがを結ぶメルヘンのようなすばらしいこの儀式を始めた昔の人は、つくづく心優しいと思う。

故郷のお盆

緑町・紺野 スイ



試して楽エコ!!

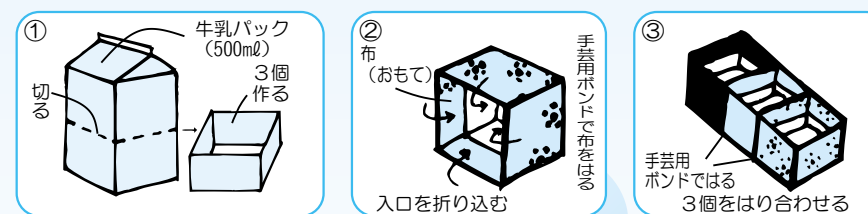


～牛乳パックで何をつくろう?何をつくろう?～

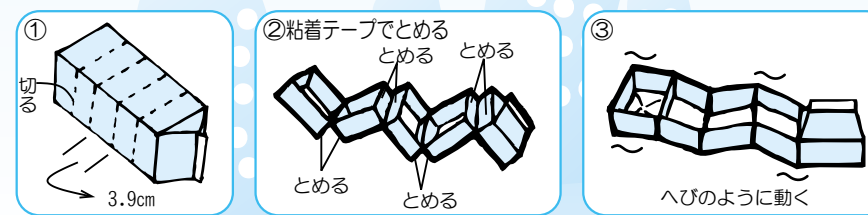
1ℓ入りの牛乳パックが空になったら...牛乳パックは優秀な資源物、洗って乾かし分別して出せば、再生トイレットペーパーに生まれ変わるのをご存じですか?混ぜればごみ、分ければ資源!牛乳パック30枚(約1kg)で再生トイレットペーパーが5個できます。

実は、牛乳パックは丈夫で厚さがちょうど良く、水に強くコシもあり、工作に適した素材なのです。夏休みの宿題に、牛乳パックを利用したリサイクル工作にチャレンジしてみましょう。

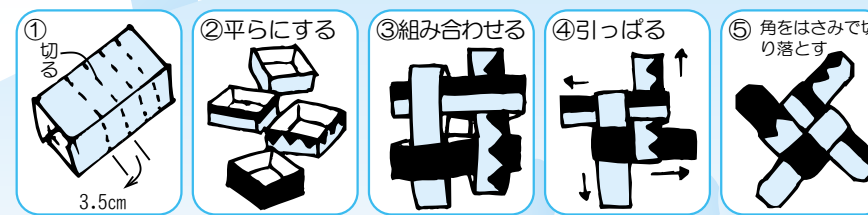
■簡単小物入れ



■くねくね牛乳パック



■しゅりけんブーメラン



問い合わせ リサイクルふれあい館・エコロ (☎2994-5374・FAX2994-1118)

皆さんからの投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『家庭菜園』▶文章は添削あり▶締め切りは8月7日(必着)▶掲載者には記念品を進呈▶いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスshiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。